

2019年（平成31年） 3月8日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

2/21~2/27のNYMEX・WTIは、55.48~57.26ドルの範囲で推移した。

2月28日は、米中貿易交渉に対する米国高官の楽観的発言、良好な米国GDPの数字を受けて、3日続伸した。ただ、中国の製造業購買指数やインドの2018年第4四半期のGDP成長率の低調さが上値を抑えた。4月限終値は前日比0.28ドル高の57.22ドル。

週末3月1日は、2月のOPEC産油量は4年ぶりの低水準であったとのロイター報道、ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は843基（前週比10基減）と2週連続の減少だったとの発表にもかかわらず、2月の米国製造業景況指数の悪化により、4日振りに反落した。4月限終値は前日比1.42ドル安の55.80ドル。

週明け4日は、昨日のロイター報道に加え、2月のロシアの産油量が昨年10月比10万b/d減少したとの報道から、OPECプラスの協調減産への期待が高まり、反発した。4月限終値は前週末比0.79ドル高の56.59ドル。

5日は、ロシアのバク・エネルギー相による3月の減産強化発言など、需給均衡への期待が高まり、買いが先行したものの、ムニューシン財務長官の米中貿易交渉への慎重発言、ドル高・ユーロ安による原油先物の割安感から、わずかに反落した。4月限終値は前日比0.03ドル安の56.56ドル。

6日は、EIA在庫週報で米国原油在庫の市場予想を超える大幅積み増し（前週比710万バレル増）報告があり、統落し

た。ただ、ガソリンと中間留分の在庫は減少し、下値を支えた。4月限終値は前日比0.34ドル安の56.22ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（4月渡し）は2月21日~27日の間64.70~67.30ドルの範囲で推移した。2月28日66.00ドル、3月1日66.60ドル、4日65.20ドル、5日65.30ドル、6日65.50ドルで推移した。

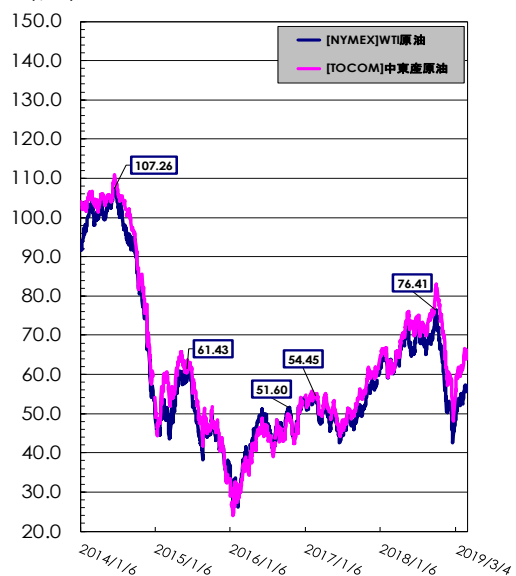
為替は2月21日~27日の間110.59~111.01円の範囲で推移した。2月28日110.87円、3月1日111.54円、4日112.03円、5日111.91円、6日111.74円で推移した。

財務省が7日発表した貿易統計（速報・旬間）によると、2月中旬の原油輸入平均CIF価格は、42,594円/klで、前旬比282円安、ドル建ては61.90ドルで前旬比0.41ドル安。為替レートは1ドル/109.40円だった。

そのような中で、3月4日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.9円の値上がり、軽油は同0.7円の値上がり、灯油は同5円の値上がり（18%ベース）だった。ガソリン、軽油、灯油ともに3週連続の値上がりだった。この週（3月第1週）の原油コストは値下がりしたが、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/24 ~ 3/2	3,596 ▲ 65	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	91.8 ▲ 1.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/2	12,333 ▲ 282	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	3/4	64.89 ▼ -1.34	▲ 3.7
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	3/4	56.59 ▲ 1.11	▼ -6.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月中旬	61.90 ▼ -0.41	▼ -6.37
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	42,594 ▼ -282	▼ -4,351
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.40 ➡ 0.00	▼ -0.07
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/4	113.03 ▼ -1.25	▼ -6.48

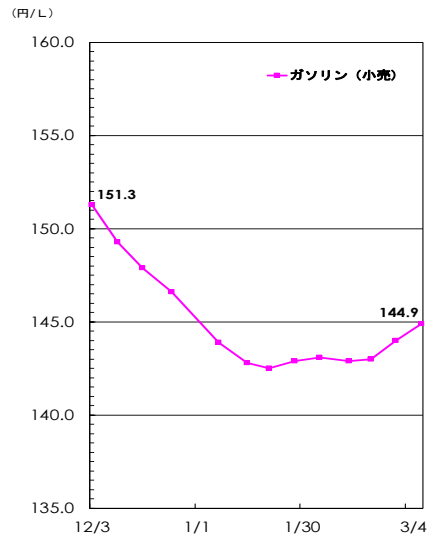
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/24 ~ 3/2	990 ▲ 19	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	876 ▼ -97	▼ -	
	輸出	"	157 ▲ 52	▲ -	
	在庫	3/2	1,588 ▼ -43	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/26 ~ 3/4	59.4 ▲ 1.3	▲ 0.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/26 ~ 3/4	55.0 ▼ -0.9	▼ -0.8
		(TOCOM/中部)	3/4	59.0 ▲ 0.5	▲ 3.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/4	144.9 ▲ 0.9	▲ 0.8	

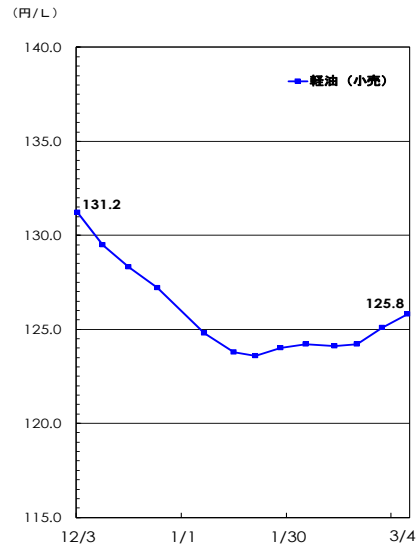
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

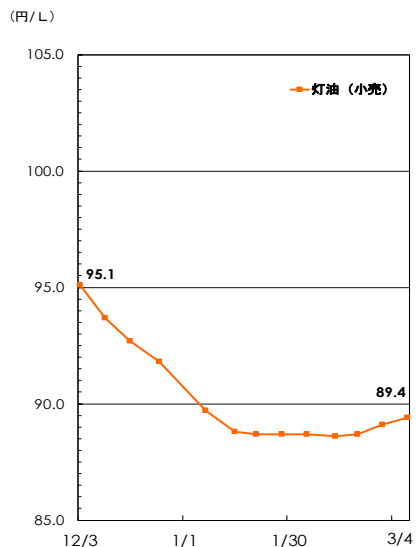
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/24 ~ 3/2	925 ▲ 120	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	664 ▼ -35	▲ -	
	輸出	"	232 ▼ -14	▲ -	
	在庫	3/2	1,510 ▲ 30	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/26 ~ 3/4	63.5 ▲ 1.9	▲ 3.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/26 ~ 3/4	64.0 ▲ 0.5	▲ 2.0
		(TOCOM/中部)	3/4	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/4	125.8 ▲ 0.7	▲ 3.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/24 ~ 3/2	385 ▲ 80	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	328 ▼ -172	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	3/2	1,596 ▲ 57	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/26 ~ 3/4	62.6 ▲ 1.4	▼ -1.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/26 ~ 3/4	61.6 ▲ 0.3	▲ 0.7
		(TOCOM/中部)	3/4	59.0 ➡ 0.0	▼ -1.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/4	89.4 ▲ 0.3	▲ 1.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

3月6日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報が、前週比710万バレル増と市場予想(前週比120万バレル増)大きく上回り積み増しとなったことから、続落した。ただ、ガソリン在庫は420万バレル減、中間留分在庫は240万バレル減と、それぞれ市場予想(各同210万バレル減・同140万バレル減)を上回る取り崩しであったことが下値を支えた。4月限終値は前日比0.34ドル安の56.22ドル。5月限の終値は前日比0.32ドル安の56.62ドルだった。

EIAによると、3月4日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.2セント値上がりの1ガロン2.422ドル(72.2円/ℓ)、ディーゼルは同2.8セント値上がりの3.076ドル(91.7円/ℓ)となった。ガソリンは4週連続の値上がり、ディーゼルは3週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成31年2月24日～3月2日に休止したトッパー能力は0.0万バレル/日で、前週に対して10.9万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は359.6万klと、前週に比べ6.5万kl増加。前年に対しては7.0万klの減少。トッパー稼働率は91.8%と前週に対して1.6ポイントの増加、前年に対しては1.8ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.0%増、ジェット/30.3%減、灯油/26.0%増、軽油/14.9%増、A重油/2.1%増、C重油/3.6%減。今週のC重油の輸入は3.9万kl(前週比2.4万kl増)。軽油の輸出は23.2万kl(前週比1.4万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は87.6万kl(対前週10.0%減)と前週比で2週振り減少となり、9週連続で100万klを下回った。ジェット6.0万kl(対前週91.9%増)、灯油32.8万kl(対前週34.3%減)、軽油66.4万kl(対前

週5.0%減)、A重油25.6万kl(対前週16.7%減)、C重油19.7万kl(対前週18.4%減)。

(単位：千kl)

	今週 (2/24～3/2)	前週 (2/17～2/23)	前週比
ガソリン	876	973	▼ -97 (-10%)
ジェット燃料	60	31	▲ 29 (94%)
灯油	328	500	▼ -172 (-34%)
軽油	664	699	▼ -35 (-5%)
A重油	256	307	▼ -51 (-17%)
C重油	197	241	▼ -44 (-18%)
合計	2,381	2,751	▼ -370 (-13%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月2日時点の在庫は、ガソリン、ジェットで取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、ジェットで取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは158.8万kl、前週差4.3万kl減。前年に対しては9.2万kl少ない。

灯油は159.6万kl、前週差5.7万kl増。前年に対しては31.0万kl多い。

軽油は151.0万kl、前週差3.0万kl増。前年に対しては24.2万kl多い。

A重油は79.0万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては12.3万kl多い。

C重油は195.9万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては15.3万kl多い。

(単位：千kl)

	今週 (3/2)	前週 (2/23)	前週比
ガソリン	1,588	1,631	▼ -43 (-3%)
ジェット燃料	702	837	▼ -135 (-16%)
灯油	1,596	1,539	▲ 57 (4%)
軽油	1,510	1,480	▲ 30 (2%)
A重油	790	787	▲ 3 (0%)
C重油	1,959	1,950	▲ 9 (0%)
合計	8,145	8,224	▼ -79 (-1.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月26日から3月4日の原油価格は、前週比で値下がりし、為替レートの円安がこれをやや相殺したが、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、2月26日～3月4日の間、ガソリン111～114円台で大きく値上がり、軽油61～64円台で大きく値上がり後やや軟化、灯油61～63円台で大きく値上がり後やや軟化して推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン113～115円台

で大きく値上がり後わずかに軟化、軽油63～66円台で大きく値上がり後わずかに軟化、灯油60～63円台で大きく値上がり後わずかに軟化して推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン107～109円台で大きく値上がり、軽油62～65円台で値下がり後大きく値上がり、灯油60～62円台で大きく値上がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社据え置きとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

今週の製品スポット市況は、先物ガソリンを除き、全油種・全取引で、前週平均と比べ値上がりした。

3月第2週(3/7～3/13)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(2/26～3/4千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油も1.4円の値上がり、軽油も1.9円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油も1.0円の値上がり、軽油も1.1円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.9円の値下がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油も0.5円の値上がりだった。

3月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (2/26 ~ 3/4)	前週 (2/19 ~ 2/25)	前週比
レギュラー	59.4	58.1	▲ 1.3
灯油	62.6	61.2	▲ 1.4
軽油	63.5	61.6	▲ 1.9

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格 [平均]	今週 (2/26 ~ 3/4)	前週 (2/19 ~ 2/25)	前週比
レギュラー	55.0	55.9	▼ -0.9
灯油	61.6	61.3	▲ 0.3
軽油	64.0	63.5	▲ 0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/26～3/4実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.3	▼ -0.9	▲ 0.2
灯油	▲ 1.4	▲ 0.3	▲ 0.8
軽油	▲ 1.9	▲ 0.5	▲ 1.2
A重油	▲ 1.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月4日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.9円高の144.9円、軽油は同0.7円高の125.8円、灯油は18%ベースで同5円高の1,609円(1%ベースでは同0.3円高の89.4円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに3週連続の値上がりだった。都道府県別には、値上がりが43都道府県、横ばいが2県、値下がりが2県だった。全国最安値は徳島県の138.0円(前週比0.4円高)、次が埼玉県139.6円(同1.0円高)、最高値は長崎県の156.1円(同0.9円高)であった。最も値上がりしたのは3.3円高の北海道(146.4円)、横ばいは高知県・滋賀県の2県、最も値下がりしたのは0.8円安の岡山県(141.1円)だった。

先週の原油コストは大きく値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに1.0円の値上げとなった。

今週は、原油価格が値下がりし、為替レートの円安がこれをやや相殺したが、原油コストは値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置きとなった。次週(3月11日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (3/4)	前週 (2/25)	前週比	直近高値
レギュラー	144.9	144.0	▲ 0.9	08/8/4 185.1
灯油	89.4	89.1	▲ 0.3	08/8/11 132.1
軽油	125.8	125.1	▲ 0.7	08/8/4 167.4

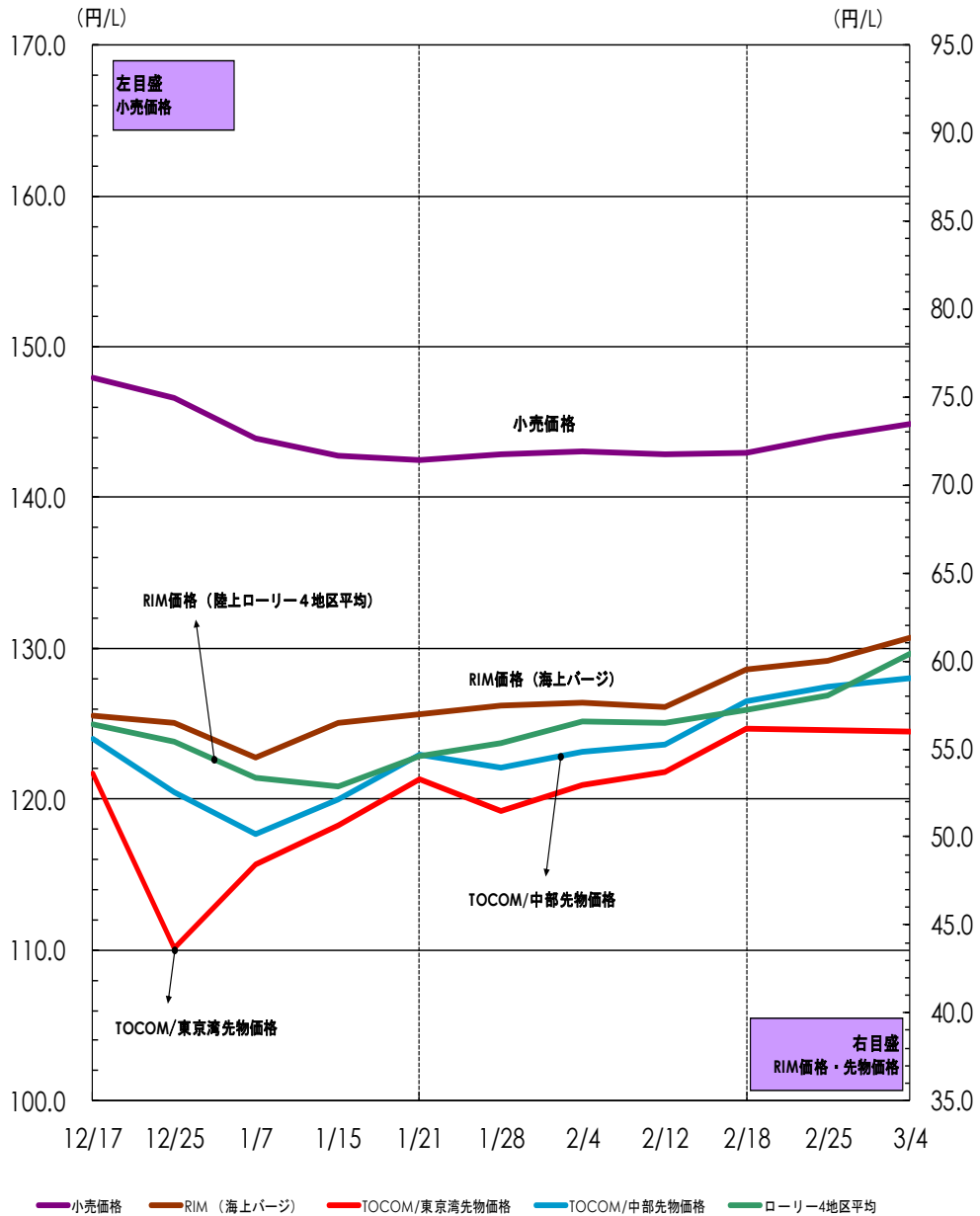
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/12/17 ~ 2019/3/4)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第47号)の公表は、3/15(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。